

多文化共生体験フェスティバル



大口中学校ランチルームで、多文化共生体験フェスティバル(通称「たぶフェス」)が開催されました。子ども向け日本語教室、あいいうえ Ouguchi」の演奏から始まり、防災講座、外国のお菓子や料理を味わうコーナー、バンブーダンスや折り紙など各国の文化を体験して楽しみました。

参加者からは、「紙で作る楽器がすごく楽しかった」「マンカラをやって夢中になった」「もっと折り紙を覚えてほしい」などの声が聞かれ、互いの違いを認め合い、理解を深める貴重な一日となりました。

3 / 26
木



ミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会 大町在勤の佐藤那奈さんが出場報告

ヤマザキマザックグループのマザックメイト(株)に勤務する佐藤那奈さんが役場を訪れ、3月に開催されたミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会のパラクロスカントリースキー出場について、鈴木町長に報告しました。

佐藤さんは今後の大きな目標は、4年後の冬季オリンピック『フランス・アルプス2030』への出場です。それまでに世界選手権など大きな大会が控えているため、着実に実績を積み、最高の状態で2030年を迎えられるようトレーニングを重ねていきたいです。またシットスキーを多くの人に知ってもらえるよう、普及活動にも取り組んでいきたいです」と抱負を語りました。

鈴木町長は、「佐藤さんのメンタルの強さやプレッシャーをはねのける力が選手生活の糧になっているんですね。今後も活躍を期待しています」と激励しました。

佐藤さんは救急救命士の資格を取得し、平成29年に丹羽消防署に入署。令和2年に受傷し、現在は車いすでの生活を送りながら競技に取り組んでいます。

シットスキー 下肢に障害がある人が座位(座った姿勢)でおこなうパラリンピックスキー競技、おまひその専用用具の呼称です。

4 / 14
火



ランバイク大会 大口町カップ初開催！

(株)東海理化本社駐車場で、大口町カップが初めて開催されました。ダラーク隊長が実況として会場を盛り上げるなか、3歳から5歳の子どもたちが全国大会で使用されるコースで完走を目指して元気に走り抜けました。

ゴールした全員に完走メダルが首に掛けられとても喜ぶ姿がみられました。参加者からは「もっと走りたい」「またやりたい」など、ランバイクを楽しむ声が聞かれました。

4 / 19
日



「経済ニュースの会」 BIG Mouth Lab.

BIG Mouth Lab.をきっかけに発足した「経済ニュースの会」。気になった経済ニュースを持ち寄り、皆さんで語り合う会です。今回のキーワードは大口町のシンボルでもある桜に関連する「桜の葉」。桜の葉を食べた蛾の幼虫の糞からできた「虫秘茶」をお取り寄せし、試飲しながら桜について話し合われました。

BIG Mouth Lab.は「何かを始めてみたい」、「自分の得意な事ややりたいことを実現する場所がほしい」、「こんな想いを持った方が集い、気軽に語り合うことで、自分が楽しいと思えることを大口町で始めたり、新たな仲間と繋がったりできる会場所」です。

3 / 22
日



チェリードリームズ

町内で活動する「チェリードリームズ」が「ブルーシーハワイアンズ」と共演し、さくら大学で演奏会を開催しました。

ウクレレの生演奏と癒やしのハワイアンミュージックが響き渡ると、会場は南国リゾートのような雰囲気になりました。フラダンスの華やかな舞いも披露され、受講者は南国気分を満喫し、楽しいひとときを過ごしました。

4 / 3
金



物価高騰に対する大口町産米の支給事業

物価高騰に加え、当時の米の価格高騰を受け、国の交付金を主な財源に、経済的負担の軽減を図ることおよび大口町産米を消費していただく地産地消の促進を目的として、町内で高校生世代を養育する世帯に対し、

大口町産米の支給をおこないました。1月13日(火)から大口町役場防災倉庫前で支給を開始し、3月31日(火)までに、661世帯の方に支給しました。

お米を受け取られた方からは、「いろいろな物が高くなり、大変助かります」といった声が聞かれました。支給できなかったお米については、大口町社会福祉協議会へ無償でお譲りします。また、お米の支給期間中に、地元農家様からのご厚意により、大根と白菜をご提供いただきましたので、お米とともに配布させていただきました。